

マツ皮目枝枯病の発生例と対策

1 研究のねらい

平成6年に松尾村にある県民の森のアカマツ林(21年生)に枝枯れ被害が発生した。

この原因と対策を明らかにするため調査を行った。

2 研究方法と結果

- (1) 平成6年8月に、被害の集中しているところを中心に標準調査区を設定した。約1500㎡の調査区の中で、194本のうち188本(97%)が被害を受け、このうち2本が枯死し、24本が樹冠の半分以上の枝が枯れていた。
- (2) 枯死木を除去し、翌年8月に同様の調査を行ったところ、被害率51%に軽減していた。
- (3) 被害状況及び枯れ枝に生じた子う盤から、マツ皮目枝枯病の被害と診断された。

- (4) 感染源となる胞子を形成する子う盤は、枯葉が付着あるいは脱落した3年生程度の比較的細い枝に多く付いていた。
- (5) 被害と降雨の関係を調査したところ、この被害の感染時期である7月の降雨が、平成5年に特に多かった。
- (6) 胞子の放出条件について実験した結果、温度には関係なく、湿度が高いときに多く放出された。

3 結果から考えられること

- (1) この被害は、マツ皮目枝枯病によるもので、平成5年7月の多雨が発生要因のひとつである。
- (2) 被害は1～2年続くが、自然に減少する。
- (3) 感染源は3年生程度の細い被害枝である。

4 成果の活用

- (1) 7月に雨が多い年には、特に注意して観察をし、早期に被害を発見する。
- (2) 翌年の被害を予防するためには、感染時期(7～8月)以前に被害木と被害枝を除去する。
- (3) 松くい虫被害発生地域との隣接地では特に注意をし、枯死木の処分を徹底する。



写真-1 病原菌の子う盤(きのこ)



写真-2 マツ皮目枝枯病の被害(まだらに枯れ枝がみられる)

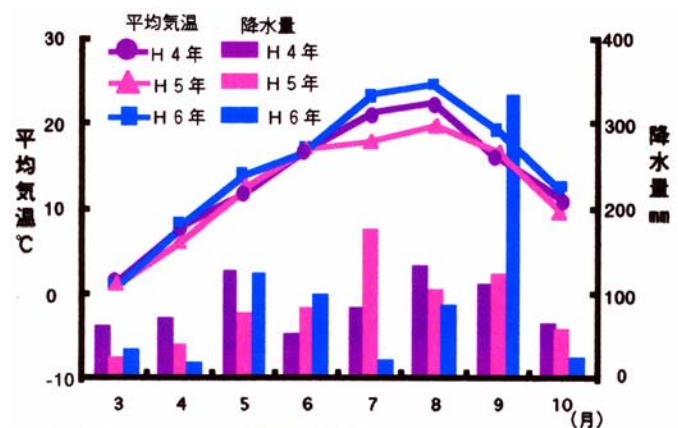


図 松尾村における月別平均気温と降水量

(担当 森林資源部 専門研究員 小岩 俊行)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第三地割字清水 560-11 TEL 019-697-1536
 岩手県林業技術センター FAX 019-697-1410
 ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/>